

令和7年
2025年

12月18日
木曜日

第11857号

食肉速報

— THE DAILY MEAT NEWS —

昭和51年5月19日
第三種郵便物認可

購読料（前納）
年間 82,080円
（税込み）
6か月 42,120円
（税込み）

本紙は関連企業・団体との
タイアップ企画記事を含みます

【発行所】株式会社食肉通信社
<https://www.shokuniku.co.jp/>

東京支社
〒101-0021 東京都千代田区外神田2-14-10
TEL03-6206-0929 FAX03-6206-0928

大阪本社
〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48
TEL06-6538-5505 FAX06-6538-5510

九州支局
〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12
TEL092-271-7816 FAX092-291-2995



- ▶ 大手豚肉サプライヤーインタビュー ハニューフーズ 西野善貴原料2部部長……………P2～3
- ▶ 輸出促進に取り組む優良事業者「カミチク」「熟豊ファーム」を紹介……………P3
- ▶ テーブルマーク、年末記者会見を開催……………P3
- ▶ 価格動向調査、仕入価格「上昇した」は約8割に上る－日本公庫……………P4
- ▶ [肉類通関速報・11月]計22万2633tで前年比2・6%増……………P4
- ▶ ぐるなび、「肉グルメ」に関する調査……………P4～5
- ▶ フレッシュネス「パクチーバーガー総選挙」開催…P5
- ▶ 串カツ田中HD社長に貫会長、坂本氏は退任…P5
- ▶ 12月の食品価格動向調査、国産牛と豚は2円安……………P6
- ▶ 地場スーパー倒産が前年1・5倍に、値上げやコスト上昇に勝てず－TSR……………P6
- ▶ 英国、24/25年度の農業経営所得、大幅減となった前年度から回復……………P7
- ▶ [資料]高病原性鳥インフルエンザ 防疫措置の進捗状況および発生状況……………P8
- ▶ [資料]日本食肉流通センター週間市況〈和牛・交雑牛・乳牛チルド〉……………P9
- ▶ [東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数]17日……………P10
- ▶ [各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場]17日…P11

注目のヘッドライン

大手豚肉サプライヤーインタビュー
ハニューフーズ 西野善貴原料2部部長

…詳細はP2～3

輸出促進に取り組む優良事業者「カミチク」「熟豊ファーム」を紹介

…詳細はP3

新刊 銘柄牛肉ガイドブック'25

多岐にわたる情報を網羅

生産 と畜 流通

380
ブランド
以上
定価 B5判/258頁
2,500円

食肉通信社



日本全国
380
ブランド以上
収録

大手豚肉サプライヤーインタビュー ハニューフーズ 西野善貴原料2部部長

—昨年を取扱実績について教えてください。

重量ベースでチルドは前期比115%、フローズンは100%、金額ベースではチルド110%、フローズン100%です。チルドは前年に続き円安や現地価格の上昇などコストアップがありました。前年に引き続き日本国内で豚肉需要増加がみられたこと、国産相場が堅調に推移したこともあって代替需要もみられ、2桁増となりました。

フローズンは一昨年、昨年と大きく伸びたこともあり、需要増加はあるものの、加工仕向けや外食がメインになるため、メニュー改定や料理の中での使用量の減少などがあつたことが大きい。ただ、豚肉の需要に関しては今期も安定して見込めると考えられます。

—今期の計画と見込みを教えてください。

おおよそですが、チルド、フローズン共に微増かプラス、物量でいえば105%くらいを計画しております。飼料価格の高騰や為替動向、と畜頭数の増減など依然として不透明な部分が多い中、全体のパイは限られています。その中で競合との差別化を進め、いかに数量を伸ばしていくかが鍵になると思います。

—現地の需給状況については。

米国、欧州のいずれもタイトな状況に変わりはなく、ブラジルについては昨年大きく伸びたこともあって期待感を持てるかと思っています。

例えばですが、フローズンで大きく伸ばしたブラジル産ですけれど、来年も引き続き米国、欧州と比較し価格優位性は継続すると予想。セット流通からパーツ流通に変化するなどのことがあれば、価格優位性をさらに打ち出すことができ、数量を伸ばすことが可能だと思います。

—今期、販売に注力されるブランドは。

チルドでは引き続き、JBSの(オットムア)工場生産される「ピュアポーク」の販売に注力します。アイオワ州立大学の指導の下、pH度、肉色、脂肪交雑、ジューシーさなどの項目で検査結果を数値化し、農場やカット工場と検証結果を共有する生産体制を築いていることが特長です。

第三者機関の品質検査による検証などにより、日本のマーケットに評価される商品作りに取り組んでいます。

また、タイソンの「アメリカンクラウン」は規格優先のブランドで、歩留まりが非常に良いことが特長です。ストーリー性を価値訴求し、エリアごとで、取り組みを共有していただける量販店とブランドの育成をしてきました。



カナダ産の「エフメナール」は「エンジェルクラフト」というブランドにリブランディングされました。内容面での大きな変化はありませんが、従来通りの三元豚は変わらず、より規格面での均一性を図っており、今年10月生産で11月に販売が開始されます。

専門の栄養士が最適な飼料プログラムを作り、生体・飼料すべてを自社管理し、一貫生産を行うことによる安定した肉質が特長です。

—主要販路は。

従来通り、チルド、フローズン共にグループの販売会社を通して量販店や外食、食品メーカーなどへの販売が中心となっております。チルドが約8割、フローズンが約6割といったところでしょうか。

チルドに関しては価格面での優位性を訴求したいと考え、価格訴求と付加価値商品、それぞれの需要に対応します。ドラッグストアやディスカウントストアを含めた量販店、特に関東エリアの店舗に対しては伸びしろがあると思いますので、販売を強化していきたいと考えております。

フローズンも業務用が伸長。使用量や原料の見直しを図られることを勘案すると、特に冷凍品の取り扱いが増加傾向にあるディスカウント業態への提案、外食、1次加工などへの販売を強化したいと思います。大阪・関西万博の影響もあり、ウデ、モモなどミンチ材は加工筋への供給も増えました。インバウンド需要も前向きに捉えながら拡販に努めたいと考えております。

—中長期的な取り組みをきかせてください。

豚肉需要はある程度の強さを維持するとみていま

す。また、フローズンに関しては引き続き、ドイツに拠点を構えるグループ会社を活用し、情報の収集・発信を強化していきたいと考えています。顧客とのつ

ながりを大切に、協業も含めてキメ細かく変化するニーズに対し「対応力」を高めていきたいと思

輸出促進に取り組む優良事業者「カミチク」「熟豊ファーム」を紹介

農水省がこのほど開催した、令和7年度農林水産物等輸出促進全国協議会総会では、農林水産物・食品の輸出促進に取り組む優良事業者表彰が行われ、本紙関係では、農林水産大臣賞に(株)カミチク、輸出・国際局長賞に(株)熟豊ファームが輝いた。それぞれの取り組みは次のとおり。

【カミチク(鹿児島市)】牛の飼料の生産から、肥育、製造・加工、小売・外食までを一貫して事業化し、グループ全体で6次産業化(Farm to Table)モデルを構築。6次産業化により、生産にかかるコストを管理し、生産農家の経営を安定させ、牛の価格も安定的に供給できるため、安全・安心で良質な牛肉を生産者・消費者共に納得のいく価格で届けている。同社の売り上げは約212億円、このうち約26億円(約12%)が輸出事業の売り上げとなっており、輸出においては2010年の対マカオへの輸出を皮切りに、現在では12カ国へ輸出。香港とベトナムでは現地法人も有し、さらにベトナムでは、飲食店を運営する他、

牛の肥育も行っている。

【熟豊ファーム(島根県雲南市)】経産牛の価値を上げるべく、栄養価・嗜好性を研究し、自社製TMR(完全混合飼料)を6年かけて開発。地域の食品副産物の再利用にもつなげ、個体差のある経産牛をAランクで安定生産。

海外顧客が重視する第三者認証としてGAP基準に基づく「美味しまね認証」を取得。海外市場でアニマルウェルフェアなどサステナブル重視や信頼性を示すため、日本初となる「サステナブルマーク」を官民連携で運用開始した。

さらに、経産牛を「熟」(JUKU)としてブランド化し、肉の国際品評会World Steak Challengeでは24年、25年連続で金メダルを獲得した。品評会では、ブラインドテイスティングで、海外産WAGYUや一般的な和牛と同じ土俵で「おいしさ」の評価を受けた。

テーブルマーク、年末記者会見を開催

テーブルマーク(株)は16日、東京都内で年末記者会見を開催した。

冒頭、松田要輔社長(写真)は「今年は昭和100年となる節目の年だったが、ここ数年継続している原材料価格の高騰、円安の進行、地政学リスクの拡大、国内における人手不足の加速など、厳しい環境が続いた。気候変動の激しさを実感した1年となった。1年の半分以上が夏、さらにこのうち3カ月は猛暑であった。地球沸騰かといわれる中、記録的猛暑や異常気象が続き、東京では観測史上最多の猛暑日を記録した。こうした気候変動は農産物の収穫量や原料価格の高騰に直結するだけでなく、消費行動にも大きな影響を与えている。今後も、この傾向が続くものと思われる中、商品戦略、販売戦略、生産体制の見直しが経営課題と

なってくる」と説明。

「テーブルマークでは“食事をうれしく、食卓を楽しく”を目標として掲げている。国内事業では、家庭用については冷凍麺、業務用はベーカリーを中心に事業拡大を図り、バックご飯は数量回復を目指す。27年に予定しているグループ会社の統合や新工場建設を含む生産体制の再編に向けて、着実に準備を進めていく。海外事業では、組織、人材を強化し、地理的拡大と商品投入によってさらなる成長を目指していく。地理的には北米を成長ドライバーとしつつ、その他の地域にも商流の構築、拡大を図っていく」と展望を語った。



価格動向調査、仕入価格「上昇した」は約8割に上る—日本公庫

日本政策金融公庫はこのほど、生活衛生関係営業の景気動向等調査のうち価格動向に関するアンケート調査(7~9月期)を公表した。

仕入価格動向では、仕入価格が前年に比べて「上昇した」と回答した企業割合は81・7%と、前年調査を1・8ポイント上回った。仕入価格上昇分の販売価格への転嫁は、「全く転嫁できていない」と回答した企業割合が31・2%と、前年調査を1・0ポイント下回った。また、今後1年間の仕入価格の見通しは、「上昇する」と回答した企業割合が79・5%となっ

た。

販売価格動向では、販売価格を前年に比べて「引き上げた」と回答した企業割合は49・6%と、前年調査を0・8ポイント上回った。また、今後1年間の販売価格の見通しは、「引き上げる」と回答した企業割合が42・3%と、前年調査を3・0ポイント上回り、業種別にみると、食肉・食鳥肉販売業が66・5%と最も高く、次いでホテル・旅館業(55・3%)、飲食業(47・9%)となっている。

【肉類通関速報・11月】計22万2633tで前年比2・6%増

財務省がこのほど公表した11月の貿易統計速報によると、肉類の輸入通関量合計は22万2633t(前年同月比2・6%増)と前年同月を上回った。米国からの肉類輸入量は3万9928t(3・6%減)と減少し、EUは1万5893t(31・3%減)となった。また、アジアからは6万6159t(1・2%増)と増加し、そのうち中国は2万2998t(9・2%増)、韓国は197t(37・

8%増)、ASEANは4万2956t(2・7%減)となった。

肉類通関速報 (単位: トン、%)

	数量	伸び率
米国	39,928	-3.6
EU	15,893	-31.3
アジア	66,159	1.2
中国	22,998	9.2
大韓民国	197	37.8
ASEAN	42,956	-2.7
肉類計	222,633	2.6

ぐるなび、「肉グルメ」に関する調査

㈱ぐるなび(東京都千代田区、杉原章郎社長)は、「楽天ぐるなび(<https://www.gnavi.co.jp/>)」ユーザーなどのぐるなび会員を対象に、世の中のトレンドに合わせて食に関するさまざまな調査を実施し、「ぐるなびリサーチ部」として定期的に情報を発信しており、今回は「肉グルメ」について調査概要および結果を発表した。詳細は以下の通り。

調査期間=2025年11月7~8日、調査方法=WEBアンケート、調査対象=全国、回答者=20代~60代のぐるなび会員1300人

【調査結果ポイント】肉料理が好きな人は約9割で、一番好きな肉は「牛肉」が半数で最多。「鶏肉」と「豚肉」がそれぞれ2割程度で、「鶏肉」は女性が男性を1割ほど上回り、特に20代女性では「牛肉」を抑えて最多となった。無性に肉料理を食べたいと思うの

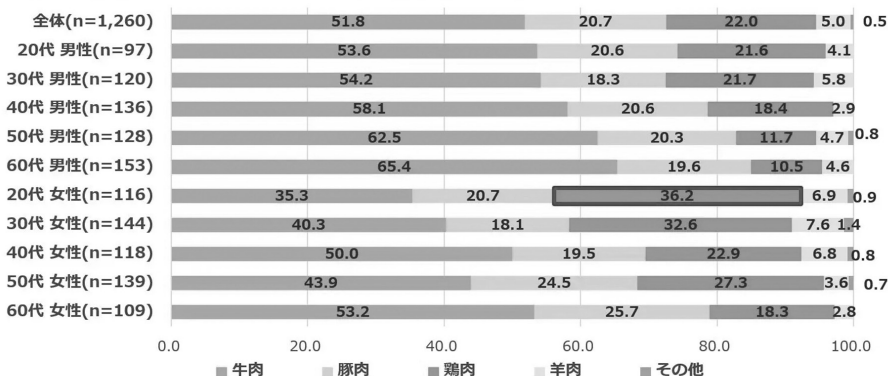
は、「スタミナをつけたい、パワーが欲しい時」が最も高く、次いで「何か良いことがあった時」であった。肉料理の外出頻度は「月に1日くらい」が最多で、月に1日以上外食する人が全体の3人に2人。さらに外食することが多い肉料理は、「焼き肉」「ハンバーグ」「トンカツ、かつ丼」がトップ3となった。「牛丼」は男女で20ポイント以上の差があり、男性では3位。「トンカツ、かつ丼」は年代が上がるほど高くなり、「ハンバーガー」は反対に若い年代ほど高くなる結果となった。

肉料理の店を選ぶ際の重視点は、「コストパフォーマンスが良い、お得感がある」が最も高く、次いで「ご馳走感がある、ぜいたくな気分になれる」。「とにかく安い」は若い年代ほど高くなり、20代では2位。良い肉を外食する時の許容価格は「~5千円」が最多だが、全体の半数弱は3千円以内だった。

同アンケートは11月29日の「いい肉の日」にちなみ実施されたもので、肉料理を「好き」と回答した人は約9割に上り、肉の人気ぶりが明らかになった。誰もが好む肉料理は、外食の機会も多くあるようで、3人に2人が月に1日以上「肉料理」を欲するよう。調査結果では、「無性に肉料理を食べたい」と思う時は「『スタミナをつけたい』『パワーが欲しい』時」(53・0%)に次いで、「何か良いことがあった時」(33・3%)が高く、肉料理の店選びの重視点では「コストパフォーマンスが良い、お得感が

ある」(54・8%)に次いで「ご馳走感がある、ぜいたくな気分になれる」(34・6%)が高くなる結果となった。

Q2.一番好きな肉の種類は何ですか。(n=1,260) ※単一回答 (%)



「牛肉」が半数、「鶏肉」と「豚肉」がそれぞれ2割程度。「鶏肉」は女性が男性を1割ほど上回り、特に20代女性では「牛肉」を抑えて最多。

フレッシュネス「パクチーバーガー総選挙」開催

コロナイドグループの(株)フレッシュネス(横浜市、齋藤健太郎社長)で、毎年春に登場し、多くのファンに愛されてきた季節限定商品「パクチーチキンバーガー」。5回目となる2026年は、パクチーをこよなく愛するファン“パクチニスト”の声を反映し、販売商品を決定する特別企画「パクチーバーガー総選挙」を開催する。

22年から春の季節限定商品として、毎年好評を博してきた同商品。これまで、パクチーと相性の良いさまざまなアジアテイストの商品を販売してきた。5回目の登場となる26年は、さらなる満足感を求め“パクチニスト”の投票を参考に販売商品を決定する。同社では今回の総選挙について、近年の外食トレンドから「濃厚さ」「満足感」「異国感」といった要素を持つメニューに支持が集まるのではないかと予想しており、同企画を通じて同社では思いつかないような、パ



クチニストならではのユニークなハンバーガーのアイデアが生まれることを期待している。概要は以下の通り。

企画名 = パクチーバーガー総選挙、投票期間 = 25年12月17日～2026年1月12日、投票方法 = 公式サイトの特設ページから参加。https://www.freshnessburger.co.jp/campaign/2026coriandervote/?utm_source=release&utm_medium=release-2026coriandervote

串カツ田中 HD 社長に貫会長、坂本氏は退任

串カツ田中ホールディングスは15日、取締役会を開催し、創業者の貫啓二会長が16日付で代表取締役会長兼社長に就任する人事を決定したと発表した。異動の理由について、代表取締役社長CEOであった坂本壽男氏から「一身上の都合により代表取

締役社長および取締役を辞任したい旨の届け出が提出された」と説明。これにより、同社は代表取締役2人体制から、貫氏の1人体制へと移行。「経営を集中させることで機動的な経営判断を行う体制を確立する」としている。

12月の食品価格動向調査、国産牛と豚は2円安

農水省大臣官房政策課食料安全保障室はこのほど、12月(8～10日)の「食品価格動向調査」(食肉・鶏卵)の調査結果を公表した。同調査は各都道府県10店舗(全国470店舗)について訪問調査を実施。価格は特売価格などを含まない消費税込み価格で、全調査店舗の単純平均となっている。

調査によると、国産牛肉(冷蔵ロース・100g)の

全国平均小売価格は837円で前月比2円安、輸入牛肉(冷蔵ロース・100g)も403円で2円安だった。

豚肉(ロース・100g)は280円で2円安、鶏肉(モモ肉・100g)は152円で3円高となった。また、平年比では国産牛肉が平年並み、輸入牛肉が20%高、豚肉が5%高、鶏肉が13%高となった。

大臣官房政策課食料安全保障室「食品価格動向調査(食肉・鶏卵)」による全国平均小売価格

(単位:円/100g、鶏卵は円/1パック)

調査期間	輸入牛肉 (冷蔵ロース)	国産牛肉 (冷蔵ロース)	豚肉 (ロース)	鶏肉 (モモ肉)	鶏卵 (サイズ混合・10個入)
令和7年12月 (12/8～12/10)	403	837	280	152	308
令和7年11月 (11/10～11/12)	405	839	282	149	304
令和7年10月 (10/14～10/15)	400	829	284	149	303
令和7年9月 (9/8～9/10)	389	854	286	151	303

注1:各都道府県10店舗(全国470店舗)について訪問調査。2:価格は特売価格等を含まない消費税込み価格で、全調査店舗の単純平均である。3:鶏卵は令和元年7月に「Lサイズ」から「サイズ混合」に調査規格を変更。

地場スーパー倒産が前年1.5倍に、値上げやコスト上昇に勝てず— TSR

東京商工リサーチはこのほど、2025年1～11月の「地場スーパー」倒産状況(負債1千万円以上)を調査。11月までに前年同期の約1.5倍の22件(前年同期比46.6%増)になっていると発表した。

それによると、コロナ下の地場スーパーは、巣ごもり需要や在宅勤務の広がりやで特需とコロナ関連の支援策に支えられ、倒産は20年の25件から21年は過去20年間で最少の11件に半減した。しかし、その後のロシアのウクライナ侵攻の長期化、円安に伴うエネルギー価格の上昇、人手不足など、経営環境が一変した。特に、運営コストが上昇する中、輸入原材料の高騰で商品の値上げが、価格競争力の弱い地域密着型の地場スーパーに大きな打撃を与えている。

地場スーパーは、コロナ禍前から業態間の垣根が

下がり、コンビニやドラッグストア、ミニスーパーが入り混り、市場競争が激化していた。特に、資金力と商品開発力で優位に立つ大手スーパー、そしてデリバリー業者など、独自の強みを持つコンペティターが多様化。競争が激しさを増す中、小・零細規模の事業者は価格転嫁も容易ではない。

倒産の原因別では、販売不振が19件(46.1%増)と86.3%を占め、競合からの脱落が激しくなっている。また、資本金別は、1千万円未満が13件(85.7%増)と約6割を占めた。破産型の倒産が19件(72.7%増)と、全体の9割近く(86.3%)を占めた。民事再生法は23年6月以来、適用がない。業績低迷からの脱却が見込めず、再建へのハードルが高い地場スーパーの実態が浮き彫りになった。

英国、24 / 25 年度の農業経営所得、大幅減となった前年度から回復

英国環境・食料・農村地域省 (Defra) はこのほど、2024/25年度 (3月～翌2月) のイングランド地方における農業経営所得の調査結果を公表した。24/25年度の全農業経営の平均農業経営所得は、5割の大幅減となった前年度 (23/24年度) から一転し、49%増となる7万1200ポンド (1472万円、1ポンド= 206・78円) と回復した。

このうち、農業環境支援スキームによる所得は、前年度の1万100ポンド (209万円) から倍増し、2万1100ポンド (436万円) となった。これは農業所得全体の3割に相当する。英国は、28年までに直接支払制度を段階的に縮小・廃止することとしており、その代替として農業環境支援スキームを拡充している。

畜産関係の経営別では、養豚専門経営を除き、全ての経営が前年度比増となった。(図) 以下、経営別の調査結果である。

24/25年度における平均農業経営所得は、約7割の大幅減を記録した前年度の約2・1倍となる15万3800ポンド (3180万円) となった。生乳需給の逼迫による乳価上昇が要因の一つである。生産コストは、購入飼料などの変動費が6%、人件費などの固定費が4%それぞれ増加したものの、牛 (38%増) や飼料作物などによる収入 (10%増) の増加が補った。また、農業環境支援スキームによる所得の増加が直接支払いによる所得の減少を上回った。

肉牛・羊などを低地 (Lowland) で飼養する牧畜経営の24/25年度の平均農業経営所得は、前年度の約2・2倍となる4万1300ポンド (854万円) となった。肉牛、羊共に価格が堅調であり、飼育・販売

頭数も増加し、飼料費、人件費などのコスト増を補った。

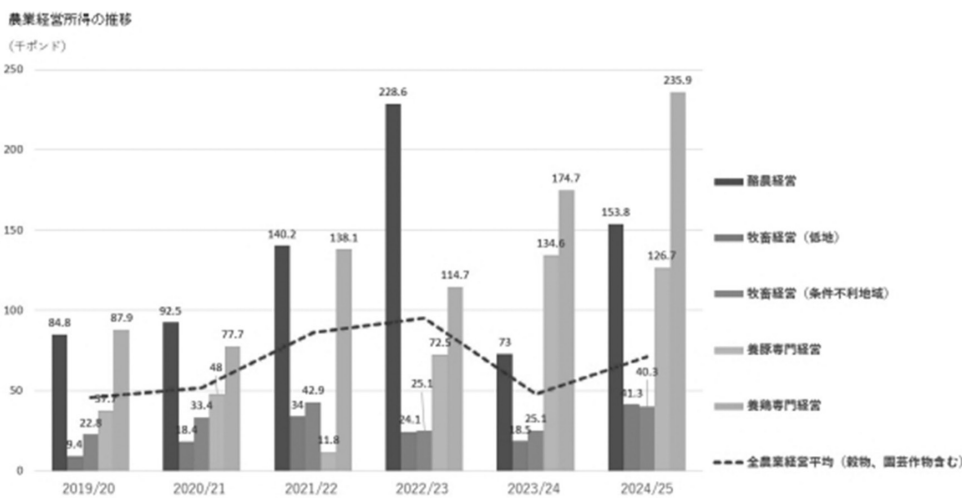
条件不利放牧地域での牧畜経営の同年度の平均農業経営所得は、61%増の4万300ポンド (833万円) となった。農業部門単独では2700ポンド (56万円) の赤字となったが、農業環境支援スキームによる所得がこれを補った。

24/25年度の養豚専門経営の平均農業経営所得は、前年度比6%減の12万6700ポンド (2620万円) と畜産経営の中で唯一前年度割れとなった。小麦や大麦など飼料コストの減少により、農業部門での所得は8万5700ポンド (1772万円) と前年度から倍増したが、食品加工・小売、再生可能エネルギーなどの多角化による収入が大幅に減少した。

なおDefraは、養豚専門経営の調査サンプル数が比較的少ないため、この結果は慎重に扱うべきとしている。

養鶏専門経営における平均農業経営所得は、前年度比35%増となる23万5900ポンド (4878万) となった。鶏肉生産量の5%増加などが増加の要因である。

なおDefraは、養鶏専門経営の調査サンプル数が比較的少ないため、この結果は慎重に扱うべきとしている。(農畜産業振興機構)



注1: 本報における農業経営所得は、農業経営から生じた収益から農業総費用を差し引いたもので、名目ベース。
注2: 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年10月末TTS相場。

[資料] 高病原性鳥インフルエンザ 防疫措置の進捗状況および発生状況

高病原性鳥インフルエンザの防疫措置の進捗状況

○ 令和7年シーズンは、これまでに7事例発生し、約197万羽が殺処分対象となった。(採卵鶏5事例、肉用鶏2事例)

発生場所	発生日 ※1	飼養羽数 ※2、3	農林水産省 対策本部	防疫措置 (殺処分、消毒等)			
				防疫措置 (殺処分、消毒等)		搬出制限区域 解除	移動制限区域 解除
				開始	完了		
① 北海道1 養鶏場 (北海道白老町)	令和7年 10月22日	約45.9万羽 (採卵鶏・ケージ飼い)	10月22日	10月22日 8時00分	11月2日 12時30分	11月14日 0時00分	11月24日 0時00分
② 北海道2 養鶏場 (北海道恵庭市)	令和7年 11月2日	約23.6万羽 (採卵鶏・ケージ飼い)	11月2日	11月2日 13時00分	11月10日 16時00分	11月22日 0時00分	12月2日 0時00分
③ 新潟1 養鶏場 (新潟県胎内市)	令和7年 11月4日	約63万羽 (採卵鶏・ケージ飼い)	11月4日	11月4日 8時00分	11月18日 16時00分	11月30日 0時00分	12月10日 0時00分
④ 新潟2 養鶏場 (新潟県胎内市)	令和7年 11月9日	約28万羽 (採卵鶏・ケージ飼い)	11月9日	11月9日 8時00分	11月18日 16時00分	11月30日 0時00分	12月10日 0時00分
⑤ 宮崎1 養鶏場 (宮崎県日向市)	令和7年 11月22日	約4.8万羽 (肉用鶏・平飼い)	11月22日	11月22日 8時00分	11月23日 11時00分	12月4日 14時00分	12月15日 0時00分
⑥ 鳥取1 養鶏場 (鳥取県米子市)	令和7年 12月2日	約7.5万羽 (肉用鶏・平飼い)	12月2日	12月2日 8時00分	12月6日 12時00分	-	-
⑦ 兵庫1 養鶏場 (兵庫県姫路市)	令和7年 12月16日	約24万羽 (採卵鶏・ケージ飼い)	12月16日	12月16日 9時00分	-	-	-

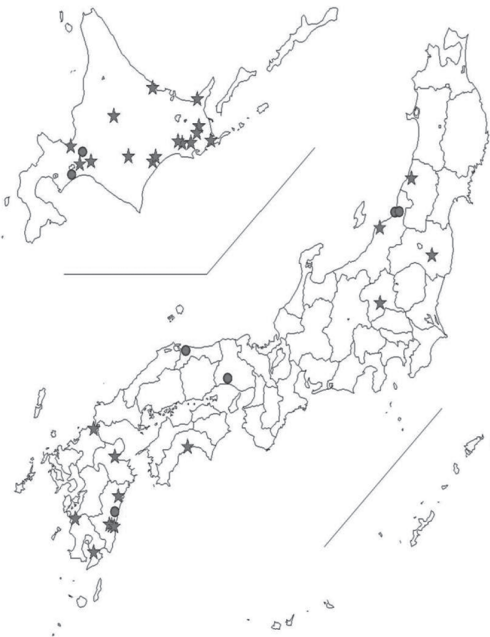
※1 疑似患者と確認した日。 ※2 飼養方法は主として疫学調査結果から引用。 ※3 飼養羽数は疑似患者確認時の羽数を記載。

鳥インフルエンザの発生状況

- 令和6年シーズンは、14道県51事例で発生し、令和7年1月に発生が急増。
- 令和7年シーズンは、これまで北海道2例、新潟県2例、宮崎県1例、鳥取県1例、兵庫県1例、合計7例の家きんの陽性事例を確認。

令和7年シーズンの発生状況

● 家きん
★ 野鳥・環境試料



過去シーズンとの比較

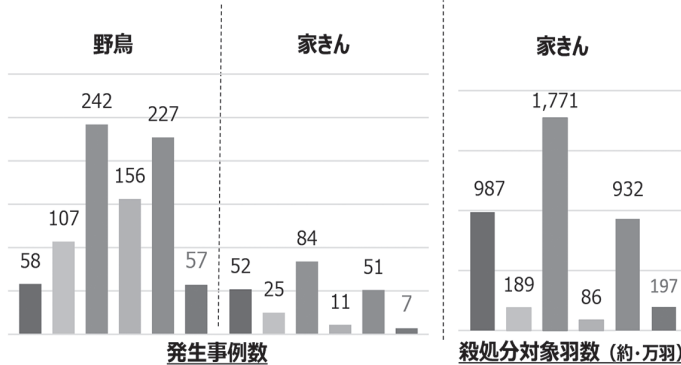
(1) 初発、最終確認日

		R2シーズン	R3シーズン	R4シーズン	R5シーズン	R6シーズン	R7シーズン
野鳥	初発	10月24日	11月8日	9月25日	10月4日	9月30日	10月15日
	最終確認	3月3日	5月14日	4月20日	4月30日	6月17日	
家きん	初発	11月5日	11月10日	10月28日	11月25日	10月17日	10月22日
	最終確認	3月13日	5月14日	4月7日	4月29日	2月1日	

(注) 野鳥の日付は回収日

(2) 発生事例数(野鳥、家きん)、殺処分対象羽数

■: R2シーズン ■: R3シーズン ■: R4シーズン ■: R5シーズン ■: R6シーズン ■: R7シーズン



(注) 野鳥における発生事例数は環境省HP参照

[資料] 日本食肉流通センター一週間市況 〈和牛・交雑牛・乳牛チルド〉

(令和7年11月30日～12月6日)

(単位：キロ当たり円、税込み、重量kg)

		第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み 平均値	取引重量		第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み 平均値	取引重量	
		和牛チルド「4等級」	首都圏	カタロース	4,255	4,491	4,860	4,575	11,390	近畿圏	3,834	4,319	4,536
カタ	3,801			4,167	4,316	4,133	12,276	3,659	3,672		4,104	3,789	10,809
カタバラ	2,160			2,376	3,084	2,561	2,679	2,154	2,368		2,370	2,340	1,430
ヒマエセット	-			-	-	-	804	-	-		-	-	-
ヒロイン	9,396			10,259	11,013	10,170	1,884	9,180	10,089		10,554	9,952	2,718
ロインセット	5,724			6,480	7,560	6,562	2,509	5,511	5,851		6,480	5,917	7,809
トモバラ	6,422			6,501	6,768	6,540	2,390	-	-		-	-	-
ウチモモ	1,942			2,205	2,804	2,241	14,349	1,944	2,560		3,348	2,616	8,645
シントアマ	4,210			4,288	4,320	4,296	3,688	3,672	3,725		4,320	3,894	3,630
ランイチ	4,079			4,117	4,362	4,139	4,554	3,672	3,919		4,320	3,957	3,039
ソトモモ	3,984			4,120	4,428	4,177	3,286	3,683	4,134		4,320	4,105	3,254
スモネ	3,405			3,772	4,050	3,728	3,467	3,672	3,672		3,791	3,721	2,442
モモセット	1,952			2,116	2,217	2,110	5,154	2,030	2,056		2,182	2,077	2,905
セット	3,823			3,996	4,167	3,981	14,085	3,593	3,808		3,888	3,766	14,956
重量合計	3,759	3,845	4,411	3,973	39,638	3,596	3,780	4,010	3,776	21,034			
												94,268	
和牛チルド「4等級」	中京圏	カタロース	3,542	3,996	4,104	3,905	2,248	九州圏	3,262	3,564	4,104	3,722	1,378
		カタ	3,542	3,780	3,996	3,797	3,087		-	-	-	-	921
		カタバラ	2,160	2,974	3,240	2,973	1,516		-	-	-	-	689
		ヒロイン	-	-	-	-	963		-	-	-	-	403
		トモバラ	4,752	5,832	6,264	5,683	1,707		-	-	-	-	774
		ウチモモ	1,836	2,052	3,240	2,177	2,499		1,674	1,782	2,444	1,898	2,318
		シントアマ	-	-	-	-	-		-	-	-	-	331
		ランイチ	-	-	-	-	-		-	-	-	-	414
		ソトモモ	-	-	-	-	-		-	-	-	-	335
		スモネ	-	-	-	-	-		-	-	-	-	425
		モモセット	-	-	-	-	-		-	-	-	-	555
		セット	3,780	3,780	3,974	3,832	2,015		-	-	-	-	-
		重量合計	3,637	3,996	3,996	3,836	6,574		3,704	4,005	4,599	4,073	6,848
												15,391	

(令和7年11月30日～12月6日)

交雑牛チルド「3等級」	首都圏	カタロース	2,928	3,183	3,456	3,184	13,049	近畿圏	2,916	3,024	3,240	3,088	18,066
		カタ	2,376	2,850	2,992	2,736	8,744		2,430	2,610	2,873	2,624	11,536
		カタバラ	2,134	2,480	2,576	2,429	2,427		1,512	1,674	1,836	1,668	4,420
		ヒロイン	6,264	6,480	6,696	6,476	4,444		6,480	6,969	7,023	6,891	4,232
		トモバラ	4,482	4,601	4,979	4,641	3,533		3,654	4,363	4,860	4,175	10,079
		ウチモモ	1,512	1,944	2,700	2,022	13,203		1,512	1,566	1,946	1,618	13,097
		シントアマ	2,484	2,592	2,808	2,589	5,345		2,484	2,592	2,700	2,581	5,542
		ランイチ	2,538	2,592	2,899	2,694	3,844		2,484	2,613	2,808	2,643	7,080
		ソトモモ	2,592	2,778	3,078	2,821	3,166		2,484	2,646	2,808	2,642	6,841
		スモネ	2,268	2,376	2,430	2,374	3,631		2,376	2,484	2,592	2,467	6,068
		モモセット	1,592	1,706	1,728	1,690	4,696		1,652	1,814	1,921	1,825	6,111
		セット	-	-	-	-	-		2,592	2,873	2,873	2,823	14,781
		重量合計	2,847	2,954	3,381	3,041	26,943		2,002	3,054	3,175	2,849	36,960
												144,813	

乳牛チルド「3等級」	首都圏	カタロース	2,863	2,951	3,240	2,987	6,302	近畿圏	2,716	2,908	3,335	2,920	7,808	
		カタ	1,944	2,085	2,117	2,039	1,173		1,960	2,052	2,332	2,138	5,494	
		カタバラ	-	-	-	-	120		-	-	-	-	-	
		三角バラ	-	-	-	-	-		-	-	-	-	-	894
		ブリスケット	-	-	-	-	-		-	-	-	-	-	-
		ヒロイン	5,292	5,400	5,616	5,422	1,877		1,296	1,426	1,636	1,408	2,824	
		トモバラ	3,324	3,324	3,730	3,431	1,314		4,860	5,400	5,715	5,289	2,452	
		ウチモモ	2,864	3,002	3,192	2,993	3,360		3,434	3,580	3,920	3,617	5,157	
		シントアマ	2,074	2,273	2,472	2,238	2,194		1,258	1,499	1,698	1,490	5,608	
		ランイチ	2,070	2,236	2,268	2,215	2,526		2,052	2,192	2,376	2,198	4,160	
		ソトモモ	2,070	2,160	2,273	2,174	2,350		1,944	2,052	2,138	2,049	2,334	
		スモネ	1,149	1,944	2,106	1,732	1,681		2,052	2,052	2,160	2,070	1,786	
		モモセット	1,609	1,620	1,674	1,632	2,638		1,577	1,699	1,782	1,696	4,720	
		セット	2,534	2,534	2,715	2,584	8,322		1,851	1,868	2,071	1,941	35,238	
重量合計												33,857		
												81,602		

東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数

[東京食肉卸売市場] 12月17日
枝肉卸売価格(瑕疵除く)(頭、1kg当たり円、税込み)

◇牛生体		5	4	3	2	1	
和牛	雌 A 117頭	高値	3,693	2,829	2,590	-	-
		安値	2,546	2,290	2,546	-	-
		平均	2,854	2,574	2,569	-	-
		頭数	100	15	2	-	-
	雌 B -頭	高値	-	-	-	-	-
		安値	-	-	-	-	-
		平均	-	-	-	-	-
		頭数	-	-	-	-	-
	去 A 189頭	高値	3,249	2,712	2,596	-	-
		安値	2,490	2,430	2,565	-	-
		平均	2,745	2,589	2,582	-	-
		頭数	152	33	4	-	-
去 B -頭	高値	-	-	-	-	-	
	安値	-	-	-	-	-	
	平均	-	-	-	-	-	
	頭数	-	-	-	-	-	
乳牛	雌 B -頭	平均	-	-	-	-	
	雌 C -頭	平均	-	-	-	-	
	去 B -頭	平均	-	-	-	-	
	去 C -頭	平均	-	-	-	-	
交雑牛	雌 B 15頭	平均	1,977	1,934	1,782	1,601	-
		頭数	1	3	6	5	-
	雌 C -頭	平均	-	-	-	-	-
		頭数	-	-	-	-	-
去 B 10頭	平均	-	1,854	1,802	1,693	-	
	頭数	-	1	5	4	-	
去 C 1頭	平均	-	-	-	1,589	-	
	頭数	-	-	-	1	-	

	牛	豚	搬入牛	搬入豚		その他
と畜 売買	430 430	1,047 873	- 375.0	(競り)	(相対)	
				-	19	77

◇牛搬入		5	4	3	2	1
和 雌	A	2,789	2,235	1,808	1,658	-
	B	-	-	1,788	1,525	1,472
和 去	A	2,649	2,601	2,553	-	-
	B	-	-	-	-	-
乳 雌	B	-	-	-	1,193	1,046
	C	-	-	-	1,041	1,010
乳 去	B	-	-	-	-	-
	C	-	-	-	-	-
交 雌	B	-	1,810	1,736	1,557	1,030
	C	-	1,638	1,676	-	1,010
交 去	B	2,019	1,896	1,803	1,638	1,195
	C	-	1,766	1,729	-	-

◇豚		[極上]	[上]	[中]	[並]	[等外]
生体	高値	866	964	929	768	686
	安値	683	637	594	432	248
	平均	777	688	665	616	466
	頭数	(4)	(222)	(265)	(228)	(154)
搬入 競り	高値	-	-	-	-	-
	安値	-	-	-	-	-
	平均	-	-	-	-	-
	頭数	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
搬入 相対	高値	-	-	-	537	537
	安値	-	-	-	537	537
	平均	-	-	-	537	537
	頭数	(-)	(-)	(-)	(2)	(17)

[大阪食肉卸売市場] 12月17日
枝肉卸売価格(生体)(1kg当たり円、税込み) []は豚規格

	5[極上]	4 [上]	3 [中]	2 [並]	1 [等外]
和 雌 A	2,748	-	2,326	-	-
(頭数)	(17)	(2)	(2)	(-)	(-)
B	-	2,495	-	-	-
(頭数)	(-)	(4)	(-)	(1)	(-)
和 去 A	2,791	2,600	2,324	-	-
(頭数)	(21)	(9)	(1)	(-)	(-)
B	2,754	-	-	-	-
(頭数)	(1)	(-)	(-)	(-)	(-)
乳 去 B	-	-	-	-	-
交雑雌 B	-	-	1,980	1,734	-
C	2,064	-	1,582	1,577	-
交雑去 B	-	1,930	1,724	1,679	-
C	1,923	1,701	1,652	-	-
豚	-	637	619	511	487

[全国と畜概算頭数]
農水省統計部発表 (頭)

	12月17日	12月16日	(12月累計)
豚	73,100	71,700	915,000
成牛計	5,480	5,360	71,050
和牛雌	1,480	1,270	18,190
和牛去勢	1,520	1,420	21,280
乳牛雌	710	710	8,890
乳牛去勢	430	560	5,770
交雑雌	700	670	7,510
交雑去	640	730	9,350

[去勢牛 B3・2 規格 枝肉取引価格] 12月17日

	1,761円	(前日 1,718円)
東京		
大阪	1,682円	(前日 1,680円)

[豚・全農建値] 12月17日

上	中	取引頭数	市況
666円	648円	1,313頭	急伸

と畜 売買	牛 120頭 牛 131頭	豚 157頭 豚 132頭	牛概況 豚概況	もちあい 弱含み
----------	------------------	------------------	------------	-------------

各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場

[主要市場豚枝肉卸売価格] 12月17日 (1kg当たり円、税込み)

	上加重 (前日)	中加重 (前日)	と畜	上場	市況
北海道 [セ]	616 (616)	- (-)	5,840	-	もちあい
仙台 [中]	604 (578)	495 (467)	680	37	反発
栃木 [地]	692 (662)	650 (558)	1,876	93	続伸
茨城 [地]	642 (641)	619 (612)	1,355	674	もちあい
群馬 [地]	664 (672)	586 (557)	2,715	348	小反落
さいたま [中]	636 (643)	627 (634)	242	237	続落
東京 [中]	688 (665)	665 (658)	1,047	873	急伸
横浜 [中]	675 (654)	652 (638)	688	688	上伸
山梨 [地]	678 (684)	593 (675)	201	140	まちまち
浜松 [地]	- (-)	- (-)	-	-	競り休止
名古屋 [中]	690 (644)	671 (622)	889	178	続伸
京都 [中]	- (623)	- (604)	-	-	休市
大阪 [中]	637 (642)	619 (615)	157	104	弱含み
神戸 [中]	- (634)	- (630)	165	-	上場なし
岡山 [地]	604 (610)	599 (596)	393	379	軟調
広島 [中]	629 (613)	596 (574)	289	101	続伸
福岡 [中]	647 (611)	622 (583)	562	188	急伸

注：北海道はホクレン大卸売価格で、前日の全道と畜頭数。

[日本食肉流通センター] 12月10日～12月16日
豚カット肉 [I] (1kg当たり円、税込み、重量kg)

◇首都圏 総重量 1,807,515 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,188	1,220	1,247	1,226	99,337
うで	637	748	828	735	178,062
ロース	1,071	1,166	1,197	1,157	147,800
ばら	1,233	1,293	1,407	1,302	188,558
もも	747	769	821	775	216,169
ヒレ	1,048	1,179	1,179	1,146	24,233
セット	920	1,020	1,059	1,004	953,356

◇近畿圏 総重量 867,084 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,269	1,350	1,406	1,339	70,728
うで	690	733	810	746	138,100
ロース	1,080	1,221	1,257	1,204	129,060
ばら	1,267	1,344	1,458	1,359	147,842
もも	712	729	809	734	199,145
ヒレ	1,105	1,206	1,258	1,200	14,984
セット	885	999	1,133	1,001	167,225

[食鳥正肉日経相場] 12月16日
荷受売値平均値 (kg当たり円、税抜き)

◇東京 (8社)

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	698	783	967	177
ムネ	487	534	696	155

◇大阪 (2社)

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	696	753	1,030	5
ムネ	476	520	611	4

[農水省統計情報部食鳥市況] 12月16日
kg当たり円、税抜き

	モモ肉	ムネ肉	手羽ト	手羽キ	ササミ
高値					
安値	16日分は19日掲載				
平均					

※日本食肉流通センター：①数値はすべて記載日中間（1週間分）に収集した累積データをもとに算定しており、直近1週間の状況を示している。②重量ベースでみた価格の分布。代表値は「重量中央値」であり、参考値として「第1四分位値」「第3四分位値」「刈込み平均値」を算定。③収集した取引価格データ（単価・重量）を単価の低いものから順に並べ替えた上で取引重量を累積し、総取引重量のちょうど50%に位置する単価を「重量中央値」。最低価格から順に累積したデータを4等分し、最初の境界に位置する単価を「第1四分位値」3番目の境界に位置する単価を「第3四分位値」という。「刈込み平均値」は、第1四分位と第3四分位の間の重量ベースの平均値（加重平均値）。

食肉業界紙のパイオニア

食肉通信の 専門紙・誌と本

食肉業界のあらゆる情報を迅速・正確に伝えるべく、日刊、週刊、月刊の3紙を定期発行。食肉関連の情報を網羅した週刊「食肉通信」、日々のニュース速報に特化した日刊「食肉速報」、市場分析などテーマ性の高い情報を詳細に掘り下げる月刊「ミート・ジャーナル」を基幹媒体として、食肉に関する専門書籍を多数発行しております。

■業界動向がデータでわかる 数字でみる食肉産業

生産から流通、販売まで関連分野のデータを集積。B5判。年1回発行。

B5判 472頁 4,191円(送料別)

■畜産・食肉業界の動向大全 日本食肉年鑑

現状分析と将来の展望、戦略構築に必携の一冊。関係名簿、畜産・食肉需給の動向、食肉流通の動向、食肉加工品関係の売れ筋動向なども収録。年1回発行。

B5判 500頁 14,850円(送料別)

◆食肉販売&経営関連

銘柄牛肉 ガイドブック

隔年刊。全国の銘柄牛肉の品種、飼養管理の方法、生産・出荷の実施主体、食肉処理と出荷・販売先、飼養頭数、ブランドの特徴など最新データを満載。

B5判 258頁 定価2,500円(送料別)

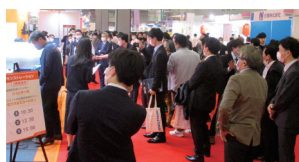
銘柄豚肉 ガイドブック

隔年刊。全国の銘柄豚肉の品種、飼養管理の方法、生産・出荷の実施主体、食肉処理と出荷・販売先、飼養頭数、ブランドの特徴、輸出の状況など最新データを満載。

B5判 240頁 定価2,200円(送料別)

◆イベント

■国内で唯一、 最大級の食肉総合見本市



食肉産業展

食のグローバル化が目覚ましい発展を遂げる中で、和牛に象徴される日本独自の食文化を守り今後の成長を促すため、多彩な素材食品、加工技術、販売手法、管理システムを一堂に集めて提案いたします。

(HP) <https://www.shokuniku-sangyoten.jp/>

お申し込みは電話かFAXで
お近くの食肉通信社まで

株式会社 食肉通信社

■大阪 〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48

TEL 06(6538)5505 FAX 06(6538)5510

■東京 〒101-0021 東京都千代田区外神田2-14-10

TEL 03(6206)0929 FAX 03(6206)0928

■九州 〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12

TEL 092(271)7816 FAX 092(291)2995

※東京事務所は2025年2月10日より上記の新住所に移転しました。電話・FAX番号も変更となりましたので、宜しくお願致します。

週刊 食肉通信



食肉全般の行政、業界ニュースをはじめ、新製品や食肉店経営のページ、量販店・外食、食肉組合、食肉市場などのニュースのほか、週間・月間市況や全国の食肉市場の牛・豚肉相場、食鳥相場など、国内外の生産から商社、卸、小売まで広範な情報を掲載しています。わが国唯一の食肉専門紙。

発行は毎週火曜日、ブランケット判8~12ページ、価格は年間25,000円(税・送料込)

日刊 食肉速報



食肉関連に関する行政、業界の動向をはじめ、国産(牛枝肉・部分肉、豚枝肉・部分肉、プロイラー)と輸入(米国産やカナダ産の牛肉・豚肉、豪州産牛肉など)の相場市況を毎日掲載するとともに、企業情報・企業倒産など日々の業界ニュースをお届けします。

発行は月曜日から金曜日、A4判14ページ、価格は年間82,080円(税・送料込) ※軽減税率対象

月刊 ミート・ジャーナル



食肉の流通チャネルが多様化する中で、その時々のもっとも話題性の高いテーマを多角的視野で捉え、現場をレポート・分析。あわせて食肉・食肉製品など総業の製造・流通・販売の現場ですぐに役立つ技術情報などを掲載する月刊専門誌。

発行は毎月月上旬、B5判120~150頁、価格は年間23,100円(税・送料込)

◆教材&レポート等

■あなたの常識を強固にする 今さら聞けない肉の常識

平野正男
鏡見 著

肉はなぜ赤いのか、しゃぶしゃぶがおいしい理由は?など66の常識をわかりやすく解説。

A5判 152頁 定価1,500円(送料別)

■~食肉のプロフェッショナルを育てる~シリーズ 牛枝肉・牛部分肉の見方 牛肉の見方を簡単図解

「牛枝肉、牛部分肉のポイント」について分かりやすくまとめた待望の入門書。

B5判 90頁 定価3,000円(送料別)

■職人の技を次世代へ繋ぐ、保存版 牛枝肉・部分肉の 分割と商品化

カラー写真も豊富で、各種規格、枝肉の分割から商品化までの全てが分かる一冊。

B5判 216頁 定価5,500円(送料別)

■知識を豊かにする 食肉用語事典

平成22年に新改訂した、定評のエンサイクロペディア。新訂正版は3,000語採録。

日本食肉研究会編 A5判 506頁 定価7,000円(送料別)

◆ステーショナリー

食肉手帳 DIARY

毎年発行し好評をいただいている業界人必携の手帳がグレードアップ。機能性、食肉価格などの資料も充実し、日頃の業務をサポートします。名入れも可。

横9.4cm×縦14.5cm 定価990円 ※購入される冊数によって価格は変動します